

飲水思源

町長 松岡市郎

フェイスブックへの書き込みと公共性

近年は通信手段が極めて発達し、一度も面識のない者同士がインターネット（以下ネット）を通じてコミュニケーションがとれる時代になっている。ネット上では友達リクエストを出して、相手が承認してくればまったく面識がなくても相手の少々の経歴と顔写真で友達関係が築かれ、写真と文字での交流が始まる（最近はない場合も多い）。

実際に会って言葉を交わしている場合は、相手の感情や前後の話の内容も合わせて全体を推し量るので誤解を生じることも少ないと思われるが、ネット上の場合はいくまでも文字が中心である。その部分だけを断片で判断すると「えっ？なに…、失礼な」などと誤解が生じることもある。従って、ネット上への書き込みは相手の気持ち、読む者、見る者の気持ちを逆なですることがあってはならない。慎重な対応が求められるものだと思う。

を押し、ときにコメントすることもあるが、後からあんなコメントをして良かったのかな、と気にかかる場合もある。まったく悪気なく書いていたのだが、読む人にとっては「えっ、これなに？」と疑問を持つ場合もあるかもしれない。私の場合ばかりではなく、公務員が私的な通信として近況報告を行った書き込みであっても、公務員として職業上の通信と同義であると捉えて読み、適正な書き込みなのか、と疑問を持つ人もいる。書き込みをする場合、特に「人の不幸を喜ぶ」と捉えられる可能性のあるもの、日常的な行動であっても「何かをあおる」と捉えられる可能性のある表現にならないか慎重でなければならないと思う。

次に問題となるのは、既にコメントをしてしまった後になって常識を逸したと、悲しむ人がいることに気が付いた場合の対応である。何かルールがあるのだろうか。この場合は反省し、フェイスブック上でしっかりと謝ることが大切なことではないだろうか。コミュニケーションは公私を問わず平素から慎重でなければならない。

望郷 (一般書)

著：森瑤子 刊：KADOKAWA



ニッカウイスキー創業者、竹鶴政孝と妻リタの人生をモデルに描いた長編伝記小説。リタはスコットランド、デボン地方に生まれ育った。病弱でこもりがちだった少女時代を経て第一次世界大戦で初恋の人を失い、失意のどん底にいた。そんな時、初めてモルトウイスキーの製造法を学びにやってきた日本人の青年と運命的に出会う。

あらしのよるに ひみつのともだち (アニメDVD)

バンダイビジュアル



あらしのよる、偶然同じ小屋の中に逃げ込んだオオカミのガブとヤギのメイ。真っ暗で顔が見えないままだけど、2匹はとても仲良くなって、また会う約束をしました。次の日、お互いの顔を見てビックリ！ だってオオカミはヤギが大好きなんですから。でも2匹はお互いを信じて、だれにも言えない「ひみつのともだち」になりました。(全9巻)

貸し出し図書 ビデオ紹介

文化交流館
☎82-4245

★本、DVDの蔵書リクエストをお受けしています★
1人5冊まで14日間、ビデオは1人2本まで4日間

貸し出し検索

<http://www.lib-finder2.net/higashikawa/servlet/Index>



鹿の王 (上・下) (児童書)

著：上橋菜穂子 刊：KADOKAWA



ヴァンは岩塩鉱に奴隷としてとられていた。ある日、乱入してきた犬たちがもたらした謎の病ではかの奴隷たちが亡くなり、生き残った幼女を連れて脱出する。一方、医師のホッサルは、岩塩鉱の奴隷たちと同じ病に直面し治療法を探そうとしていた。厳しい世界の中で、他者を温かく支えながら生きる人々の激しくも美しい物語。